

## NTTコムウェア

### CMMIの最高位、レベル5を達成

NTTコムウェアは、ソフトウェア開発プロセスの能力成熟度を評価・判断する国際的な指標であるCMMI (Capability Maturity Model Integration) レベル5を達成したと発表した。

CMMIは、ソフトウェアCMM、ソフトウェア調達CMMなどが統合されたもの。レベル1～5までの5段階があり、CMMIレベル5は「すべてのプロジェクトが開発しているシステム/製品/サービスの品質および納期、生産性などを定量的に管理し、阻害要因に対しては自律的に対応でき、組織全体として継続的にプロセス改善活動が推進できる能力を備えている場合」に認められるCMMIの最高位レベル。CMMIやCMMを作成・運営する米国カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所の公開ホームページによると、CMMIやCMMを達成している団体は約450あり、そのうちCMMIレベル5を達成している団体は約2%しかない。

NTTコムウェアでCMMIレベル5を達成したのは、システム開発部門の4つのパイロットプロジェクト、約450人。同社では、今回のパイロットプロジェクトによるCMMIレベル5の達成に続き、その開発プロセスの仕組みを開発部門全体(約3,200人)に展開することを目標に取り組んでいる。また、同社は、日本で24人目となるCMMリードアセッサを擁しており、さらにはCMMIリードアプレイザの養成にも取り組んでいる。

< TEL : 03-5463-5779 >

## サン・マイクロシステムズ

### Java技術を基盤とした、OSS/J共同検証プロジェクトを開始

サン・マイクロシステムズは、NEC、日本BEAシステムズ、日立製作所、アイログ、ソニックソフトウェアの5社と協力して、通信事業者のネットワーク設備や通信サービスの運用に必要な管理基盤システムであるOSS(オペレーション・サポート・システム)基盤における、Java技術によるオープン化を日本国内で促進する目的で、「OSS/J 共同検証プロジェクト」を開始した。

OSS/J (OSS Through Java)は、J2EEをはじめとするJava技術をベースとしたテレコムOSS共通APIを開発し、無償で公開することでテレコムOSSのオープン化を目指すコミュニティ活動で2000年から世界的に活動が開始されている。今回開始する「OSS/J 共同検証プロジェクト」は、日本国内においてOSS/Jの本格的な普及を目指すもので、以下の活動を協力企業とともに挙げる。

サン本社内のiForce Solution Centerにサン社のシステム製品を中核とした検証環境を設け、各協力企業から提供されるOSS/J準拠の製品をもとに、各社と共同で、OSS/Jに準拠したテレコムOSSのためのモデルアーキテクチャの設定、参加企業が提供するOSS/J準拠のコンポーネント同士の相互運用性の実証、日本特有のシステム環境を考慮したOSS/Jアーキテクチャの適用性とシステム開発時における柔軟性の考察を行う。また、通信事業者にOSS/Jの活動状況や本プロジェクトの結果を照会する検証環境も設置する。

< TEL : 03-5717-5717 >

## 日立情報システムズ

### e-ADWORKSのフロントオフィス機能を強化

日立情報システムズは、e-Japan戦略の実現に向け、電子自治体ソリューション「e-ADWORLD」のフロントオフィス機能を強化。「電子申請・届出」をはじめ住民にとって便利で使いやすい電子窓口サービスを短期間で実現するパッケージ(3商品)をメニューに追加し、販売開始した。

今回「e-ADWORLD」に追加した商品は、「電子申請・届出」をはじめ、電子自治体業務システムのフロントオフィス機能を短期間で導入できる以下の3つのパッケージ。

- ・行政ポータルサイト構築パッケージ CYPORAL(ソフト価格:300万~)
- ・電子申請・電子申告汎用受付システム CYRECAP(同:250万~)
- ・電子調達支援システム CYSTAGE(同:150万~)

本パッケージの導入により、電子窓口による住民サービス向上はもちろん、市町村における業務改革のスピードアップを図ることができるとしている。同社は電子自治体実現を全面的に支援するソリューション「e-ADWORLD」により、多種多様な自治体業務をカバーするパッケージ商品を拡販している。中でも、基幹業務を担う「住民情報システム」は、市町村合併の統合システムも含め全国で200を超える団体への導入実績がある。同社では、今回販売開始する3商品を、「e-ADWORLD」導入自治体はもとより、大規模自治体まで幅広く拡販していく方針。

< TEL : 0120-346-401 >

## セイコーインスツルメンツ

### 電子マネー「Edy」に対応した小型決済端末 AT-6100 を開発

セイコーインスツルメンツ(SII)は、ビットワレットの運営するプリペイド型電子マネーサービス「Edy」に対応した店舗用決済端末「AT-6100」を開発、3月中旬より出荷開始した。



AT-6100は、幅約10cmとコンパクトでスタイリッシュな「Edy」対応決済端末で、様々な業態の店舗に設置ができるのが特徴。SIIでは、外食向けオーダーシステム「オーダーシャトル」や無線カード決済システム「クレピコ」の事業を通じて培ってきた業務用端末開発のノウハウを活かし、電子マネー「Edy」が小額決済の場面で幅広く市場に普及していくことを想定し、本機の開発を進めた。

プリペイド型電子マネー「Edy」は、ソニーの開発した非接触ICカード技術「FeliCa」を利用した決済サービスで、2001年11月の本格サービス開始以来、すでに350万枚以上のカードが発行されており、大手コンビニエンスストアチェーンをはじめとする流通業やアミューズメント用途など、次々と新しい市場が開拓されており、今後も一層の普及が期待されている。

今後SIIは、クレジットカード決済やモバイル決済など付加価値サービスの応用を検討していくとしている。

< TEL : 043-211-1735 >

## ブルーコートシステムズ

### ハイエンド・プロキシ・アプライアンス「ProxySG 8000」を発表

ブルーコートシステムズは、ProxySGファミリーのハイエンドモデルとなるProxySG 8000シリーズ・アプライアンスを日本市場に投入する。今回発表したProxySG 8000は、従来の同社のハイエンドモデルに比べて4倍のWebトラフィック処理性能を実現している。企業ネットワークを行き交うWebトラフィックは、日々増加し続けている。企業にとって、このWebトラフィックを確実にコントロールし、企業ネットワークを安全に守ることは最重要課題の1つだ。また、エンタープライズ・アプリケーションのWebサービス化に取り組む企業においては、Webトラフィックの輻輳や停止は業務に多大な影響を与えることになる。一方で、複雑化する企業ネットワークの管理はますます難しくなっている。ProxySG 8000は、大企業及び大規模組織向けのハイエンド・プロキシ・アプライアンスとして開発されており、企業内に増加し続けるさまざまなWebコミュニケーションをワンボックスで容易に管理できるように最適化されている。

同製品は、専用のSGOSを搭載、ハードウェアは、デュアル3.2 GHz Intel Xeon プロセッサ、最大4GBメモリー、最大584GBのディスクで構成され、コンテンツ・フィルタリング、IMコントロール、Webアンチウイルス、P2P ファイル共用コントロールのための最適なプラットフォームを実現している。最小価格はオープン価格で約880万円。

< TEL : 03-5425-8481 >

## 京セラコミュニケーションシステム

### ASP型メールサービス「BizW@Ikers エンタープライズメール」を開始

京セラコミュニケーションシステムは、企業ユーザーを対象に、ASPによるメールサービス「BizW@Ikers エンタープライズメール」の提供を開始した。

本サービスは、インターネットを利用して情報の活用範囲を拡大し、高い安全性のもと、ランニングコストの低減を目指す企業ユーザーを対象とした電子メールアウトソーシングサービスである。

インターネットブラウザを搭載したパソコンや携帯電話・PDA等のモバイル端末から社内メールの送受信が可能のため、オフィスに限らず自宅や出張先のパソコンからでも特別な設定を必要とせず、従来の社内メールと同等の機能がすぐに利用することが可能である。また、インターネット・セキュアアクセス・サービス「NET BUREAU」と組み合わせることで、あらかじめユーザー認証情報が埋め込まれたUSBキーをパソコンに挿入すれば、利用者は自分のユーザー情報を入力することなく、いかなるインターネットアクセスポイントからも、イントラネットと同様の安全性レベルで企業内電子メールに自動的にアクセスすることができる。このサービスを確保したうえで、なりすまし防止対策と利便性のさらなる向上を実現している。

また本サービスでは、企業ユーザーの要求する安全性、信頼性、利便性を兼ね備えた高機能なサービスを提供し、小規模ユーザーから大規模ユーザーまで、社内メールサービスの完全なアウトソーシングを行っている。

< TEL : 03-5792-0260 >